

ご意見・ご要望を  
お寄せください

# 日本共産党 区議会報告

発行:日本共産党品川区議団  
2009年11月号  
発行責任者:宮崎 克俊  
TEL.5742-6818(直通) FAX.3778-3088  
http://www.jcp-shinagawa.com/

今年は  
443人が  
入れなかった

## 品川区は200人 定員増というけれど...



# 認可保育園の増設が必要です



「この子が保育園に入れなければ、働きにいきません」

今年の4月、認可保育園を希望しながら入れなかった子どもは443人。先の議会で区は「来年度、定員を200人増やす」など緊急総合対策を発表しました。この対策は区民の願いを一部反映していますが問題もあります。

今年11月時点で認可保育園の申し込みはすでに835人。昨年を108人上回るペースで、来年は入園希望がさらに増えると予想されています。品川区の対応で保育園に入れることになるのでしょうか。

品川区の保育緊急総合対策は、来年4月に向けた計画として、①既存の認可保育園19園で定員200人増、②認証保育園の保育料を認可保育園と同程度に軽減、③既存認可園の近隣小学校2校で5歳児50人を保育し、空いたスペースに子どもを受け入れる、というものです。共産党は「認証」保育料の軽減、学校の空き教室を使った保育の実施を求めています。

品川区は、増え続ける保育需要にも認可保育園増設の方向がありません。今年4月に策定した「第4次長期基本計画」(今後10年間の計画)でも、保育の需要増への対策は、①幼稚園に保育園機能を加える「幼保一体化」施設、②株式会社などが運営する認証保育園の誘致だけです。

品川区が認可保育園を増設しないのは、子どもの人口は2014年をピークに減少するとの予測と、不況

で一時的に保育需要が高くなっているだけの考えが背景にあります。今回の緊急策でも濱野区長は「今後の幼年人口の減少も視野にいて対策を進める」としています。もうすぐ保育需要は減少するから認可保育園は建設しないというのが本音です。

しかし、こんな「予測」で保育園をつくらなくていいのでしょうか。品川区は再開発でマンション建設を推進するなど子育て世代の呼び込みをすすめています。また、女性の多くは子育てしながら働ける社会を望んでいます。将来の予測でなく「保育園に入れない」現実を解決するため認可保育園の増設がどうしても必要です。

### もうすぐ ピーク過ぎるから

## 民主党 政権

### 厚労省が保育所設置 基準の緩和。「詰め込み」 保育がさらに加速!

厚生労働省が、全国一律に定めている認可保育所の面積の最低基準を、待機児の多い都市部では一時的に下回ることを認める方針を打ち出しました。最低基準は、ゼロ・1歳児の場合、乳児室なら1人当たり1.65平方メートル(約1畳)など。子どもに「健康で文化的な最低限度の生活」を保障するために国が定めているものです。

ところが、増え続ける保育園入園希望に「詰め込み」で対応してきた品川区はさっそく「(規制緩和が)実現すると、待機児の解消、減少に向けた大きな手立てが見えてくる」(担当部長)と歓迎。認可保育園を作る方針がない品川区では、基準緩和がされるとさらなる「詰め込み」が加速することになります。これが民主党がかかげる「チルドレンファースト(子ども第一)」なのでしょう。

## 保護者の声

「不況で夫の給料がダウン、ボーナスもカット。住宅ローンをはらうために、私がパートで働かなくてはならないので母に2時間かけて孫の面倒をみに来てもらっている。なんとか保育園に入れないか」と相談が寄せられました。

